



高校生と防災



研究の目的・背景・仮説 (Introduction)

現代を生きる私たちは常に危険と隣り合わせの生活をしている。なんの前触れもなく起こり、平穏な日々が一瞬で壊されてしまう。2016年に私たちの故郷、熊本を巨大地震が襲ったときに身をもってそれを体感した。それ以降も、世界各地で地震や火事、洪水など、人々の命が危険にさらされるような事象が今も相次いで起こっている。そんなときに自分の身を守るのは最終的には自分しかおらず、人に頼りきりでいざというときに自己防衛をできるかといえそうではないはずだ。たとえだれがどこにしよう私たちが取り巻く災害や危険などは容赦なく起こるものである。

学校における防災教育は行われているものの、生徒たちはあまり自分事として考えられていないのが実情であると感じて、それを改善する方法を考えてみた。その結果、私たち高校生が生徒たちと同じ視点から本校の校舎を用いて避難方法や経路などを示すことによって身近に感じられ、従来の防災教育の質をより高めることができると考えた。そこで、動画を作成して生徒たち、また先生方にも共有し、安全で安心の学校生活を送ることができるようになればと考え、この研究を開始した。

動画作成に取りかかる前に仮説を2つ立てた。

①ほとんどの生徒たちは校舎に設置された防災設備の使用法や位置などを把握していない。
②文字や画像だけの動画と比較して、映像やナレーションが入っている動画の方が伝わりやすい。
このような仮説のもと、研究を進めていくことにした。

材料と方法 (Materials and Methods)

仮説①を確かめるため、SNS(Instagram)を用いて高校生男女合計80人にアンケート調査に回答してもらった。その結果をインターネット上のサイト「円グラフ画像メーカー」を使用して調査の結果を可視化した。それに基づき動画の構成を決定した。

また仮説②を確かめるため、文字や画像だけの動画と映像やナレーションが入っている動画の両方を見る。2つの動画の比較をし、違いを探す。良いと感じた方を動画で用いて動画を作成していく。

材料
実際の災害の画像・映像、校内の地図、避難経路の順路に沿った映像、AED・担架の場所を示す地図

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 方法1 | 方法2 |
| ①生徒を対象としてアンケート調査を行う | ①文字や画像だけの動画と映像やナレーションが入っている動画を見る |
| ②①を参考に動画作成案を考案する | ②2つの動画と比較し違いを探す |
| ③動画の材料集め | ③良いと感じた方を動画で用いる |

動画の内容

動画の構成

- ①実際に起きた震災の写真
- ②火事の映像
- ③校内地図
- ④避難する経路の映像
- ⑤避難の心得
- ⑥AED・担架の場所を示す地図
- ⑦消火器の場所

動画を作る工夫

今回動画を作る前に見やすい動画はどのような工夫がされているかを班で話し合った。様々な動画を見ていく中で見やすい動画は文字をほとんど使わず、映像や写真を中心に構成しているのではないかと考えた。そのため、初めに映像と写真を主体とした動画を作っていくことを決めた。しかし、どうしても文字を用いて説明しなければならない箇所が生じた。避難の心得は特に文字で説明する方が分かりやすくなる部分が多く、動画で文字を見やすくする工夫を探した。

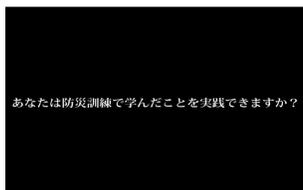
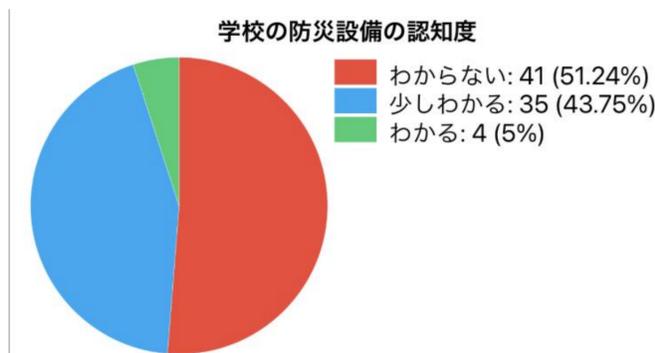
文字の色は背景の画像の色との相性を考え、なるべく動画を見ている人が文字を読みやすくなるようにたくさん色を実際に動画で使って決定した。文字の大きさに関しても様々な大きさの文字を使って最も読みやすくなる文字の大きさを見つけ出した。

また、動画を見ることを通して自分が避難する時にどのようなことをすべきかを考えられる動画を目指した。そのような動画にするために問いかけを動画内では多く行った。

これらの工夫によって見ている人が見やすいと感じ、自分の考えを持つようになる動画作りをした。

結果1

実際にどれほどの人が学校の防災設備について知っているのかを調査した。調査は生徒80人を対象にアンケート調査を行った。学校の防災設備の認知度について「わからない」「少しわかる」「わかる」の3つの項目から選択してもらった。結果は「わからない」を選んだ人は41人、「少しわかる」を選んだ人は35人、「わかる」を選んだ人は4人となった。このことから、学校の防災設備について「わからない」と回答した人は全体の約50%と半分近くを占めており、防災設備について正確に認知できている人は全体の5%であった。よって、私達は動画を作る際にAEDや担架の場所を学校の地図を用いて示し、災害時の緊急連絡システムについて説明することにした。



◦実際に動画で用いた映像
今回の動画は映像がメインとなるように作成した

考察(Discussion)

動画作りと並行して行ったアンケートで、生徒の学校の防災設備、また、災害が起こった場合の避難経路の認知度を調査した結果、「わからない」が約半数を占め、「わかる」と答えた生徒が全体の5%であったことは予想との相違点は感じられなかった。また、災害が起こった際は多数の生徒がパニックになることが考えられる。そんなときに知識があればおそらく少しなりとも平静を保つことができるだろう。そのために必要な情報を盛り込んで動画作成を進行する計画を立てた。

また、アンケートの結果により、制作していた動画に新たに項目を付け足し、より詳細な情報を入れることにした。今後は最終的な目標である、学校での避難訓練に使えるような動画を目指して調整していくつもりである。

参考文献(Reference)

- 円グラフメーカー <https://lab.syncer.jp/Tool/Pie-Chart-Generator/>
- [著者名]. [論文名]. [誌名]. [出版年], [巻数], [号数], [はじめのページ-おわりのページ].
- ・書籍
[著者名]. [書名]. [版表示], [出版者], [出版年], [総ページ数].
- ・Webサイト中の記事(ネット上の情報)
[著者名]. ["ウェブページの題名"]. [ウェブサイトの名称]. [更新日付]. [入手先(URL)]. [(入手日付)].

謝辞(Acknowledgments)

本研究を進めるにあたって、担当の宮崎先生に多くのご助言、激励を頂きました。また、情報提供をして頂いた古澤先生、動画作成のため機材をお借りした放送部のみなさんにも大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。